

History of Mishima

この顔は何の顔？

新型コロナウイルス流行収束の願いを込めて



▲「箱根田遺跡（安久）で発見された人面墨書土器（右）と人面のイラスト（左）」

コロナ禍、世間では疫病を鎮める妖怪アマビエがにわかにな目されていますが、遙か昔より疫病は繰り返し人類を脅かしてきました。さて、右の土器をよく見て下さい。顔が描かれています。分かり易くするため隣にイラストを載せました。この顔は何の顔だと思えますか？妖怪でも、いたずら描きでもありません。

History of Mishima

太い眉、大きな目、荒々しいあご髭。墨で土器に描かれたこの顔は、「禍を引き起こす疫神」の顔です。この土器は人面墨書土器（三島市指定文化財）といい、三島市安久にある箱根田遺跡で発見されました。今から千二百年前の平安時代の遺跡です。日本各地にある遺跡のうち、人面墨書土器が発見される遺跡は限られています。中央では都のあつた平城京や平安京、地方では国府や郡衙など国の施設に関係する遺跡で、出土場所も溝や河川跡がほとんどです。箱根田遺跡からも溝跡と古代伊豆国に関連する倉庫跡が見つかっています。この遺跡は、駿河湾から狩野川、さらに大場川を遡って三嶋大社東側にあったと推定される伊豆国府に向かう水運ルートの入口に位置し、川の港「津」としての機能があり

History of Mishima

ました。医学的知識の乏しい当時の人々は、疫病などの禍は、真つ暗闇の深夜に外部から疫神が集落の中に入り込み、悪さをして暴れまわることが原因と考えました。そのため、国府や集落の入口付近の水辺で人面墨書土器に酒やご馳走を入れて疫神をもてなし、住んでいる地域に疫神が入つてこないよう、疫神退散を願う祭祀を行っていたようです。また当時の人々は、自分に禍ごとが起こるのは、日常生活の中でいろいろな罪や穢れが溜まっていくことが原因のひとつだと考えました。そこで身代わりとなる人形を作り、この人形で体を撫で、ふうーと息を吹き込むことで自分に溜まっている罪や穢れを人形に移し、自身は再び穢れない状態に戻す「祓」の儀式を行

History of Mishima

ました。そして溝や水辺で穢れを移した人形を「水に流す祭祀」をしました。この祓の儀式は、現在も半年の節目である六月三十日の夏越の祓や十二月三十一日の年越しの大祓として三嶋大社などの神社で行われています。医学の進んだ現代においても、冬季になると流行する季節性インフルエンザ、2020年の新型コロナウイルスの流行は私たちにとって大きな脅威となつていきます。ましてや平安時代では、その恐怖はなおさらのことだったでしょう。箱根田遺跡の人面墨書土器からは疫病退散の切実な思いが伝わってきます。楽寿園の中にある郷土資料館三階に展示していますので、コロナ禍が落ちついた頃に、ぜひ足を運び、ご覧になって下さい。

歴史の小箱

No.386

企画展
三島宿のジオと歴史
写真とマンガで見る

7月11日から企画展「三島宿のジオと歴史 ー写真とマンガで見るー」を開催します。

郷土資料館（楽寿園内） ☎ 971・8228

「伊豆半島ジオパーク」が世界ジオパークに認定されてから二年経ちました。

ジオパークと聞くと多くの人は特異な地形や地質が織りなす大自然を連想します。しかし、ジオパークの構成資産は、地域の「歴史・文化・産業」と「地形・地質」が同等に重要とされています。そのため、今回はジオの視点で三島宿の生い立ちを紹介いたします。

江戸時代に三島宿が繁栄したのは、東海道最大の障害物である箱根火山があったからです。この箱根火山の存在で三島宿独自の文化や歴史が育まれました。

また、約七万年前の箱根火山の火砕流は山麓部に平坦な地形を作り、縄文時代人の居住地となりました。現在では再開発され、何万人もの三島市民が住ん

でいます。その表層には、富士火山の火山灰が厚く積もり、「箱根西麓三島野菜」と呼ばれる特産物を生み出しました。三島宿を育んだもう一つは富士火山です。約一万年前に富士火山より流出した「三島溶岩流」は現在の三島市街地を埋め立てました。今も楽寿園より北側の各所に露出しています。



▲三嶋大社の大鳥居
小豆島産の花崗岩製です

ゴツゴツの溶岩露出地は、居住・耕作に適さず、古墳時代以降は主に墓域として利用され、江戸時代には、楽寿園とその周辺にたくさん寺院がありました。そして現代に至り、この硬い地盤と豊富な地下水などが評価され、利用価値が大きく変化しました。

約二千九百年前、富士山東斜面が大崩壊し、巨大土石流「御殿場泥流」が発生し、三島市域の南半を埋め立て、やや南に傾く平らな土地を作りました。弥生時代以降、人々はこの平坦地に住み、三島溶岩末端から湧きだす水を水田・生活用水に活用し、「三島宿」を成立させました。火山の恵みを享受し、発展してきた三島宿の特徴をよく表しているジオポイント十カ所を、静岡県地学会東部支部の協力で選びました。三島宿の歴史は楽しいマンガで紹介します。今年是小浜池の水位も高くなりがちです。同時にぜひご鑑賞ください。



▲三嶋大社の大鳥居
マンガで描きました



小林一男(72才) 藤(69才)

石川 歩 (山田小6年)

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんはとても元気です。家の庭で遊んだり、おでかけをたくさんしたりするのがとても楽しみです。

おじいちゃんは、ゴルフをやっている。おじいちゃんに教えてくれたりします。よく、庭の手入れをやってくれるので庭がとてもきれいです。

おばあちゃんは山登りやゴルフ、お花を育てることが好きで、富士山にいつしよに登りました。

これからも、明るく元気なおじいちゃんとおばあちゃんであってほしいです。

わたしの
おじいちゃんおばあちゃん

当番 いしかわ あゆさん